

2部

フィールド フィールド
現場から現場へ

念ずれば花開く

通信教育部福祉心理学科卒業生 **太田 早苗**

1. 東北福祉大学通信教育部との出会い

50歳を迎えたころから、仕事の知識やスキルをより深めるため、そしてセカンドキャリアの準備として「心理学を学びたい」という思いが芽生え、様々な通信制大学の資料を取り寄せていました。駅近で通学に便利、3年次に編入でき最短2年で卒業できる東北福祉大学通信教育部に目が留まりました。「ここなら、仕事と家庭を抱えながら勉強できるかも…」と、50歳半ばで一念発起、2023年10月に入学し、2026年3月にどうにか卒業を迎えることができました。卒業を目指し、必死で駆け抜けた2年半でしたが、とても充実した日々でもありました。在学中のみなさん、特にこれから福祉大で学ぼうとしているみなさんの、少しでもお力になればと思いペンを取りました。

2. 論述式レポートは、自己主張の場

このような小見出しをつけると先生方にお叱りを受けそうですが、レポートを書く時、私はそのような心もちで臨んでいました。レポート作成にはルールがあり少々身構えますが、それでも自分の考えを文章化することは、課題について自分がどう考えているのか明確にすることが出来ます。特に課題の内容が自分の関心事であれば尚の事です。この課題について、私はこのように考えると、堂々と自己主張できるのです。

論述式レポート課題は、担当して頂いた先生がその科目で最も重要でしっかり理解してほしい項目であると考えます。まず、「レポート課題」「ア

ドバイス」をじっくりと読み込み、課題についてどのような点に着目し考え取り組んでほしいのか、先生からのメッセージを正確に受け取ることに努めます。

課題について、自分は理解できているか？曖昧な点や疑問点無いか、レジュメや教科書を見直し、並行して課題に関連する文献も検索します。文献検索のために、私はよく公立図書館のネット検索を利用しました。活用出来そうな書籍があれば予約し借用します。専門書も意外に多く、先生が示す参考文献を借用できることもありました。時には、一般書籍や児童向けの書籍を活用しました。一般読者向けや児童向けの書籍は、専門的な難しい内容について、専門用語を用いず分かりやすく表現されています。一例を示すと、複雑な脳のメカニズムの理解には児童書がとても役に立ちました。色鮮やかな図を用い、各部位の名称や働きについて丁寧に表現されています。児童書を読んだ後に専門書に戻ると、スムーズに内容を理解することが出来ました。

次は課題について自分はどう考えるのかをまとめます。課題に関連した自己の経験やメディア等の情報があれば、それらを例に挙げながら自分の考えを整理しまとめます。そして、自分の考えが独りよがりにならないよう、文献を引用します。「○○（2024）は、「△△」と述べており、私は□□と考える」と論じることになります。

そして、いよいよレポートを提出します。先生方は、丁寧に簡潔に評価して下さいます。自分が熟慮した点について触れ評価して頂ける事もあり、嬉しくなりました。更に「○○について調べてみて下さい」など、学びを深めるヒントを頂ける事もありました。ただ、先生のメッセージを正しく受け取ることが出来ないと、時に厳しい評価を頂くこともあります。もちろん気落ちしますが、それは「もっと学んで欲しい」という先生からの新たなメッセージです。改善すべき点についても詳細に記載されていますので、その点を再考しレポート作成に臨みました。先生の意図を理解し

レポートが出来上がった時、自分自身も満足のできる内容となりました。

時間と労力を費やし論述式レポートを仕上げた時、達成感と爽快感が生まれます。文献を読みながら自分の考えを整理し自分の考えを主張する過程は、自分自身と向き合うことになり、セルフケアの効果もあるのだと感じています。

3. 学生生活を楽しんで

通信教育部には、全国各地から老若男女様々な思いを抱えた学生たちが集います。会場スクーリング、特にワークがある講義は、学生たちが交流できる貴重な機会となりました。スクーリングで何度か顔を合わせるうちに、昼休みはランチを共にし、情報交換するなど通学生さながらの学生生活を経験することも出来ました。やがて彼らは、卒業を目指し励まし合う大切な友となりました。坂村真民氏の詩に「念ずれば花開く」という一節があります。その意味を「強く思い、努力を重ねることで、道は開ける」と私は解釈しています。在学生のみなさん、どのような学生生活を過ごすかは自分次第です。ご健闘をお祈りしています！